

取組事例 特色ある学校づくりによる地域の活性化・人の呼び込み

(音威子府村、三笠市)

音威子府村や三笠市では、高校を核とした地域の活性化や交流人口の拡大などの施策により、転入超過への転換や転出超過の縮小が見られる。

人口動向

市町村	H28転入	H28転出	転入超過	H27転入超過
音威子府村	92人	85人	7人 ←	-14人
三笠市	323人	410人	-87人 ←	-118人

音威子府村

取組事例 道内唯一の工芸高校に全国から生徒が集まる

おといねっふ美術工芸高等学校(村立高校)

- 1学年40名、全校生徒115名
(うち道外16名)
全日制工芸科(美術コース、工芸コース)
全寮制



- 音威子府村は、人口約790名の北海道で一番人口の少ない村であり、高校生が人口の1割以上を占めることから、村の創生総合戦略において高校を核とした取組を推進
- 地方創生交付金を活用し、近隣の幌加内、剣淵の両町立高校、下川商業高校と連携して、札幌市での学校紹介入学案内事業を実施
- 卒業生の地元定着のため、村では、卒業生を村に招聘し滞在しながら芸術作品の制作等を行うアートインレジデンス事業を実施
→卒業生のUターンが増加中

三笠市

取組事例 食に特化した食物調理科に全道から生徒が集まる

三笠高等学校(市立高校)

- 1学年40名、全校生徒120名
全日制食物調理科
(調理師コース、製菓コース)



- 三笠市は、生徒数の減少により道立三笠高校が閉校するのを受け、食のスペシャリストを育成する市立高校として再スタートさせ、全道から学生を募集
市外から多くの生徒が入学



- 全道各地から入学した生徒は、イベントなどで料理の提供やコンビニとの共同商品開発を実施

- 全国スイーツ甲子園で優勝するなど、料理やスイーツのコンクールでも優秀な成績を修めている

- 三笠市では、高校を核として、地元食材を活用した料理やスイーツを提供する「高校生レストラン」の設置を決定、平成30年夏にオープン予定

